

生物多様性に関する認知度調査の結果について

1 調査目的

平成 29 年 2 月に改訂した「第 2 次生物多様性えひめ戦略（計画期間：H29～R 8 年度）」において「生物多様性の認知度」が指標にするとともに、当課 KGI としても同数値の活用していることから、目標達成率の調査を実施するため。

2 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査

3 調査期間

令和 5 年 8 月 30 日（水）～ 9 月 10 日（日）

4 回答者数

400 人（18～79 歳の県内在住者）

5 概要

【自然への関心】

- ・「非常に関心がある（13.0%）」「ある程度関心がある（58.0%）」となり、県民の 71.0% が自然に関心を持っている結果であった。
- ・一方、「あまり関心がない（25.8%）」、「全く関心がない（3.3%）」となっており、県民の大部分（96.7%）が一定以上の関心を持っていた。

【生物多様性の認知度】

- ・生物多様性の「言葉も内容も知っている（22.8%）」、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない（42.5%）」となり、県民の約 65% が生物多様性を認識している結果であった。
- ・本県戦略の目標値は、生物多様性の認知度（R4 年度）を 60%、理解度を 26% としており、認知度は目標を上回った一方、理解度は下回り、引き続き普及啓発を続ける必要がある。

【環境配慮マークについて】

- ・「環境配慮マークについて知っており選びたいと思う（24.5%）」、「環境配慮マークについて知っているが選びたいとは思わない（26.3%）」、「環境配慮マークについて知らない（49.3%）」であった。
- ・県民の約半数が環境配慮マークを知っており、そのうち半数が行動につなげる意向を示していた。環境配慮マークについて県民へ周知を図るとともに、環境配慮マークの食品・商品の消費が生物多様性に貢献することを丁寧に説明する必要がある。

【環境に配慮された農林水産物・食品について】

- ・「いつも選んでいる（4.5%）」、「時々選んでいる（29.3%）」、「あまり選んでいない（46.5%）」、「全く選んでいない（19.8%）」であり、環境に配慮された農林水産物・食品を選ぶ傾向が高い割合は全体の 1/3 に留まっていた。

【生物多様性の保全に貢献する行動として既に取り組んでいること】

- ・「生産や流通で使用するエネルギーを抑えるため、地元で採れた旬の食材を味わう（37.8%）」、「エコラベルなどがついた環境に優しい商品を選んで買う（19.5%）」、「野外活動への参加や、動物園や植物園に行くことを通じて、自然や生物について学ぶ（11.3%）」、「清掃活動や外来生物の駆除などの活動に参加する（8.8%）」、「自然の素晴らしさや季節の移ろいに対する感動を、写真や絵などで伝える（7.5%）」、「生物多様性についての環境教育・学習セミナーなどに参加する（2.3%）」、「その他（0.5%）」、「特に取り組んでいない（44.8%）」であった。半数近くが何らかの取り組みを実施していた結果であった。

【生物多様性の保全に貢献する行動として取り組みたいこと】

- ・「生産や流通で使用するエネルギーを抑えるため、地元で採れた旬の食材を味わう

(52.3%)」、「エコラベルなどがついた環境に優しい商品を選んで買う(34.5%)」、「自然の素晴らしさや季節の移ろいに対する感動を、写真や絵などで伝える(15.3%)」、「野外活動への参加や、動物園や植物園に行くことを通じて、自然や生物について学ぶ(13.5%)」、「清掃活動や外来生物の駆除などの活動に参加する(13.5%)」、「生物多様性についての環境教育・学習セミナーなどに参加する(5.8%)」、「その他(0.3%)」、「特に取り組みたいと思わない(23.0%)」であった。8割近くの方が何らかの取り組みを実施したい結果であった。